

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	刈谷総合病院高浜分院	階数	地下0階地上6F
建設地	愛知県高浜市	構造	RC造
用途地域	病院	平均居住人員	200 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2018年3月1日
敷地面積	7,616 m ²	作成者	田邊・水馬
建築面積	2,619 m ²	確認日	2018年3月5日
延床面積	10,443 m ²	確認者	桂川



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	184 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%
②建築物の取組み	160	90%
③上記+②以外の	160	90%
④上記+	160	90%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.2**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

音環境	3.9
温熱環境	3.4
光・視環境	3.6
空気質環境	3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性	3.5
耐用性	3.2
対応性	3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.5**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

建物外皮の	4.7
自然エネ	4.0
設備システ	2.6
効率的	3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

水資源	3.4
非再生材料の	3.5
汚染物質	4.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.3
地域環境	3.2
周辺環境	3.3

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>21.2 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	21.2 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	21.2 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

3 対応性・更新性			0.2	3.5	0.29	3.2	3.2	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	3.4	0.31	3.4	3.4	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	0.60		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40		4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			0.3	4.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		4.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性			3.0	4.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性			3.0	5.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	4.0	0.22			-	
5階病棟 0.14									
PS,DSを適宜配置し、構造部材を傷めることなく更新可									
PSを適宜配置し、構造部材を傷めることなく更新可									
更新スペースを見込む									
屋上に受変電や設備機器の予備スペース確保									
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
瓦を用いた建物サイン、地域に開放した売店・カフェを設けている									
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30			-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.5
LR1 エネルギー					0.40			-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.88	3.0	4.7	0.30		-	4.7
2 自然エネルギー利用			ハイサイドライト、病室に自然換気窓あり	3.0	4.0	0.20		-	4.0
3 設備システムの高効率化				3.0	2.6	0.30		-	2.6
4 効率的運用				0.2	3.5	0.20		-	3.5
集合住宅以外の評価				1.0	3.5	1.00		-	
4.1 モニタリング			中央監視でメイン機器の消費電力把握	3.0	4.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-
4.1 モニタリング				-	3.0	-		-	-
4.2 運用管理体制				-	3.0	-		-	-
LR2 資源・マテリアル					0.30			-	3.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水			節水器具を全面的に採用	3.0	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63		-	3.5
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ビニル床系床材、内装ボード、壁紙、階段滑り止め	3.0	5.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	トイレのユニット化、システム天井の採用	3.0	4.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22		-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			接着剤、シーリング材等の有害物質の含有無	3.0	5.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-	-		-	-
2 発泡剤(断熱材等)			建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォームA種1H(ODP=0,GWP=1)を採用		5.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境					0.30			-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2が参照値の90%		3.3	0.33		-	3.3
2 地域環境への配慮				0.3	3.2	0.33		-	3.2
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	4.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		独自	駐車場の設置、患者用・管理用駐車場の分離、駐車場の分散配置	-	5.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			ごみの分別化、廃棄物庫の整備	-	5.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.3	0.33		-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	
1 騒音		独自		-	3.0	0.33		-	
2 振動		独自		-	3.0	0.33		-	
3 悪臭				-	3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-		-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.7	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインの過半を満たしており、広告物照明の扱いは過半を満たしている	-	5.0	0.70		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			ガラス面にフィルムを設定	-	4.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

刈谷総合病院高浜分院

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:21.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	刈谷豊田総合病院 高浜分院の建替え移転である。1階に外来機能、2階に健診センター、3階に透析センターを有し、病棟は、3階に一般病床46床、4・5階に療養病棟96床、合計142床を持つ病院である。耐震メガフレーム構造を採用することにより、窓側に大きな開口を設け、外壁側居室及び病室内に十分な自然光を取り込む計画としている。また建物維持管理性能の向上を目的とし、天井やトイレのシステム化を積極的に採用している。
Q1 室内環境	外装はLow-Eペアガラスのサッシと厚み25mmの断熱材を吹付けた押出し成型セメント板によって構成しているため、優れた外皮性能を確保している。また、大きな開口部を確保しているため、積極的な昼光利用を可能としている。内部においては、天井及び床の内装仕上げに吸音材料を使用することで室内環境の向上に努めた。また、病棟エリアは東西南北の廊下及びデイルームに排煙兼用換気装置を設置し、自然通風を積極的に促すプランとした。
Q2 サービス性能	外来部分は天井高2.6m、病室部分は天井高2.5mを確保しており、広さ感に配慮した。また、医局や事務においてはOAフロア100mmを確保している。維持管理に配慮し、エントランス部には汚れを落とすマットの設置、清掃が簡単な床材使用、SKの適正な設置により日常的なメンテナンスを容易にしている。また、将来的な更新に配慮し、天井のシステム化及びトイレのシステム化を採用している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内は周辺地域に対し開放的であり、かつ地域住民が利用する歩道を病院建設敷地内に復元している。また、道路に面する部分に、売店・カフェを併設することで、地域との交流を目指した計画としている。高浜市は瓦の産地であるため、建物サインや外構に瓦を積極的に取り込むことで、まちなみへの配慮を行っている。
LR1 エネルギー	BPIは0.83、BEIは0.88となっている。透析センターには自然採光・自然通風を有効に利用する為、可動式のハイサイドライトを設けている。病棟部には東西南北の4方向に排煙兼用の可動窓を設置しているため、中間期の自然換気を可能としている。
LR2 資源・マテリアル	仕上げ材料は再生材料を用いている。システム天井化、トイレのシステム化を行い、仕上げ材・構造材の分離を容易にする配慮を行っている。各種接着剤の化学物質排出は発生しないものを使用している。断熱材はODP=0かつGWP=1の材料を使用している。
LR3 敷地外環境	建物ボリュームは卓越風に対し平行に配置することで、周辺敷地に対する風の流れが大きく変わらないように配慮している。敷地内にはゆとりある駐車場を分散して配置しており、また、メインエントランス側に屋根付き駐輪場も配置している。建物の配置を敷地南側に寄せることにより、敷地北側への日影を極力少なくするよう配慮している。
その他	